

最適な衛生管理型漁港の施設設計の提案

テーマ 漁港の衛生管理

キーワード 清浄海水導入、取送水施設、水質・底質調査

漁港の衛生管理技術

食に対する安全意識の向上により、より安全で鮮度の高い水産物の供給が求められています。しかし、水産物が陸揚げされる岸壁の多くには屋根がなく、雨水・鳥糞・土埃などの混入により、鮮度低下・異物混入といった危険性が従来から懸念されています。

そこで、当社では、水揚げされた水産物の鮮度保持、岸壁の衛生管理を実現するため、最適な衛生管理型漁港の施設設計（陸揚岸壁の屋根の設計、漁港内から汲み上げた清浄な海水を漁獲物へのかけ水や岸壁洗浄などに使用する取送水施設設計、岸壁改良など）を提案いたします。

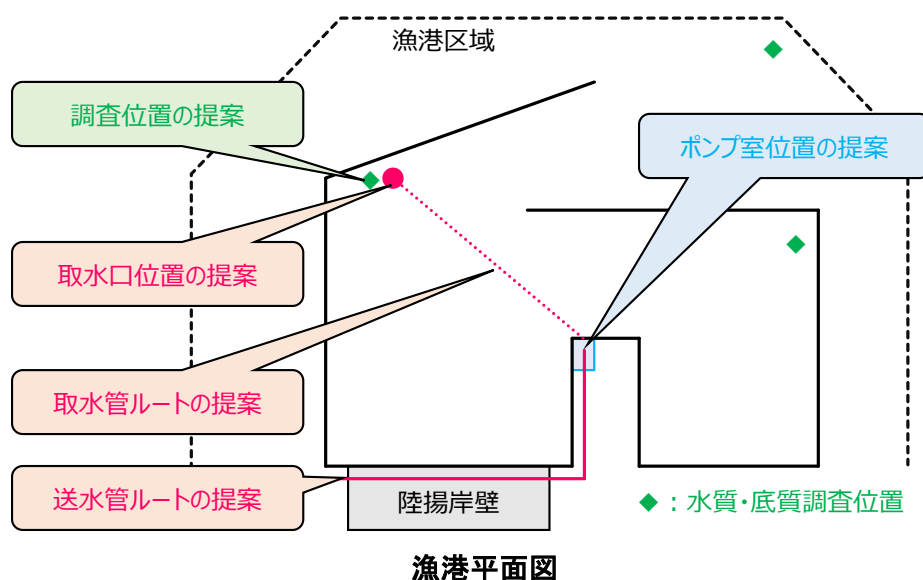
技術の内容

（１）水質・底質調査

漁港内は閉鎖的な水域であるため、水質・底質が良好でない場合が多いことから、事前に水質・底質を調査します。水質・底質の調査位置や評価項目は、漁港の利用のされ方、漁港で扱う魚種等を考慮して設定します。

（２）取送水設備の設計

漁港の利用状況、深浅、漁船の航行ルート・停泊状況を踏まえて、取水口位置・取水管ルート・送水管ルート・ポンプ室の位置を設定し、取送水に必要な機器の規格を検討します。またこれらのコストを検討し、最適な取水方式を提案します。



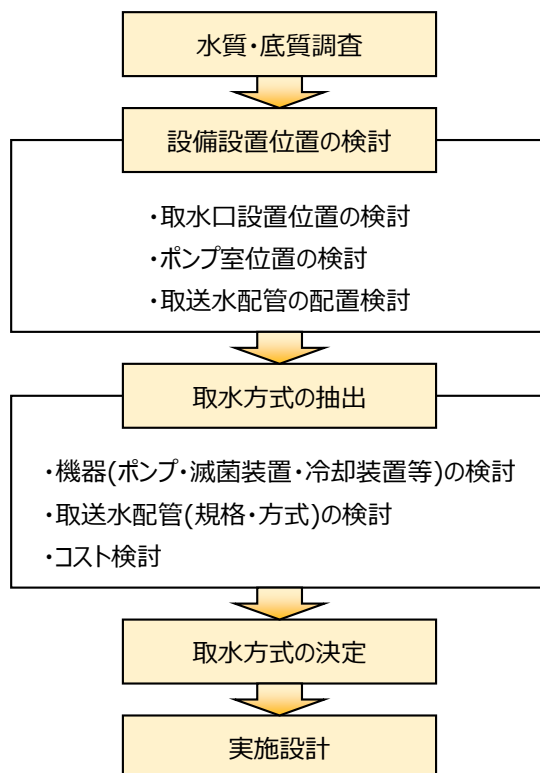
日本工営株式会社

お問合せ

内容に関するご質問は、以下のページからお問い合わせ下さい。

URL <http://www.n-koei.co.jp/contact/>

実施フロー



技術ポイント

(1) 維持管理を踏まえたコスト検討

海水使用量を多く計画すると、使い勝手は良くなりますが、取送水に必要となる機器（ポンプ・滅菌装置・冷却装置等）の規模も大きくなり、初期費用が大きくなります。また、これらの機器は、定期的な部品交換などのメンテナンスや、耐用年数経過による機器交換、電気料金が必要となります。

コスト検討では、初期費用のみではなく維持管理費用も含めて検討し、現実的な計画水量を提案します。

(2) 衛生管理型漁港の施設設計

衛生管理型漁港の施設設計は、取送水施設（土木、電気機械設備）だけでなく、陸揚岸壁の屋根施設やポンプ室（建築）、これらの施設を岸壁背後に設置することによる岸壁改良（土木）など多岐にわたるとともに、施設境界での調整が重要となります。当社では、これらのワンストップでの対応が可能です。

関連実績

H29 取送水施設の方式検討、ポンプ室内の機器配置検討（鳥取県）